

内海機械 (府中)

AIロス削減システム奏功

単品・短納期強化し、取引先倍増

工作機械部品製造の内海機械(府中市鶴岡町743-1、内海和浩社長)は、近畿大学と共同研究した「段取りロス状況の見える化」システム導入から1年で生産性向上に成果を上げ、受注増につながっている。導入前に約1億円だった売上高は2023年10月期に約2億円と倍増を予想。今後も生産設備の増強などを通じ、中国地方一帯の「試作品の駆け込み寺」を目指す。

製造工程の時間のロスをAIで分析するのと、前の製品の生産終了から次の製品の生産を始めるための調整など、機械の準備をする「段取りロス」が一番大きかった。ロス削減へ、正規

にかかる時間よりも長いかどうかをAIが自動判定。段取りが遅ければ工場のリアルタイムモニターや機械に備えたパトライトで職人に知らせる。段取りロスが発生する度に、原因を正確に追及して改善を繰り返して、生産効率を10%向上させた。加えて、新型コロナ禍を逆手に取り、営業活動を積極展開。決裁者へのアプローチがスムーズだったため、取引先160社とコロナ前に比べ2倍に増えた。

徹底した5S活動や生産効率化などにも取り組み、発注漏れや設計変更などの単品・短納期に特化。全国から視察が相次いでおり、今年は大東京六大学の教授ほか、6月には大手経営コンサル会社の事例視察研修として約150社が見学に訪れるという。内海社長は「5S・IoT・AIを徹底的に突き詰め、『ぶつちぎりの戦略的多能工集団』を目指す」としている。

書店の啓文社が取扱 高校の金融経済教材

書籍・教材販売の啓文社は5月、高校生

向けのボードゲーム型金融経済教材「教育用！資産形成ゲーム」の取り扱いを始めた。

学習指導要領の改訂で2022年度から資産形成が必修化され、広島と岡山の主要取引先の学校に売り込む。スライドやカードを使い、世界経済に影響を与えた過去の出来事を解説。これらの事象に関するヒントから経済動向を予想し、ゲーム内で投資商品を選ぶ。収益率に応じて損益が発生し、最終的に所持金を多く保つて投資への興味喚起につなげる。価格は1万6500円。